

## コロナ禍の今こそ 「あいさつ」「そうじ」

山口 正志  
(東洋通信工業株式会社)  
代表取締役会長



まず、自分の略歴から。国家戦略である高度情報通信ネットワーク社会の構築に一役買おうという大それた考えは毛頭なく、ただ代々続く左官業が嫌で地元の高校卒業後、いずれ高岡に帰り何かの商売を起こそうと、小売業の実務を身につけておきたいと思い、大阪の衣料品問屋に住み込みで働きました。今から55年も前のことですから、いわゆる丁稚奉公でした。

住み込みの同僚4人と働いていました。仕事は大変厳しく、6時半には起床し、隅々まで掃除をし、夜は8時頃まで仕事をしていました。休みは日曜日だけで、平日の外出は禁止でした。その時徹底的にしつけられたのが「あいさつ」と「そうじ」でした。この4年間の経験があったからこそ、今の自分があると思っています。

高岡に帰り今の会社を創業する時、みんなが「あいさつ」と「そうじ」が当たり前に行える社風でありたいと願いました。そして今もなお、願い続けています。「あいさつ」と「そうじ」ができる社員がたくさんいる会社は、社会のお役に立てる仕事ができ、大きく成長できると信じています。

爽やかな笑顔で大きな声で「あいさつ」できる人は、第一印象が良く、お客様に可愛がってもらえます。そして人と人との繋がりも良くなり信頼され、仕事をするならこの人をお願いしようというふうになります。逆に「あいさつ」ができない人はこれとは反対に、人と人とのコミュニケーションが取れなくなります。毎身体調が良く気分のいい日ばかりではありませんが、体調が悪い日でも爽やかに笑顔で「あいさつ」しようと思う気持ちがあれば、必ず相手にも伝わると思います。

「そうじ」とは、きれいな場所にいたい、住みたい、きちんとした身なりでいたい、と誰もが思う気持ちを実践することです。ちょっと身なりを整えるだけで、周りの人から好印象を持ってもらえます。トイレ掃除や目につかない所の掃除は、人間にしかできない一番大事なことであると思います。会社によっては「そうじ」は清掃業者に依頼……というところも少なくないかと思いますが、自分の机は自分で拭く。自分たちが使うトイレは自分たちで掃除をする。そういったちょっとしたことで意識が変わるかもしれません。自分たちの職場は、ぜひみんな掃除をしてほしいものです。

自慢話になりますが、「東洋通信工業で工事をしてもらおうと、帰った後もゴミひとつなく、いつもきれいにしてもらいます」、「あいさつも元気で感じよく、良い若い人がたくさんいますね」、「仕事をしてもらおうならぜひお宅で……」とよく言われます。創業以来の自慢です。43年間の長きにわたり、会社を続けてこられたのも「あいさつ」と「そうじ」のおかげだと思っています。

これからも、この社風を続けていきたいと思っています。

もうひとつの自慢は、創業時からある社員食堂です。お昼の時間は美味しい昼食をみんなで食べています。二人の男性調理師の方が作っています。日替わりメニューのバイキング形式で、食べたい分だけ取ります。これも社内のコミュニケーションを良くしたいという思いでずっと続けています。これまではテーブルを囲んで食事をしていましたが、現在はコロナ感染予防のためテーブルに一人しか座れません。すべてのリズムが変わったように思います。

弊社は情報通信ネットワーク、携帯電話ショップ、パソコンスクール、電話設備や防犯カメラなどの販売・工事・保守サービスなどの仕事をしており、最近のコロナ禍では、ウェブ会議、メール、テレワーク等の相談がたくさんあります。コロナ禍ではどれも大変大事なシステムであり、便利に安心安全に使っていただき、業務の利便性を高めていただきたいと思います。ちょっと心配で懸念されることがあります。

「あいさつ」が直接できないことです。どのシステムも皆様の会社で使っていただきたいと思いますが、微妙な顔の表情やちょっとした身体のしぐさなどが相手に伝わりにくくなります。マスクを着け、「大きな声を出すな!」、「密になるな!」などといわれる昨今、早くコロナが収束し、また人間らしく大きな声で爽やかなあいさつができる日が待たれます。

就職活動の面接も変わったことの一つです。学生さんの会社訪問、説明会、面接などはウェブで済ませる会社がたくさんあります。便利なことはたくさんありますが、お互いの顔の微妙な表情や、話し方、声の大きさなど、分かりづらくなり、会社側も学生さんの知りたいことが分かりにくく、あとでミスマッチが起こるかもしれません。本当に大事なことが見えにくくなっているかと思います。

また、教育の現場でも大きく変わろうとしているのが、オンラインでのGIGAスクール構想です。コロナ禍、自然災害等発生時、子供たちが自宅で勉強ができるようになります。みんなに平等で安心安全なシステムで大変良いことだと思う反面、これに頼りすぎると子供らしさ、みんなと一緒に遊ぶ楽しさ、子供同士の約束事など守れるのか大変心配です。ソフト面をしっかり考え、本当に役に立つものに育てていかなければなりません。ここでも子供同士のコミュニケーションが問われると思います。

今やどの会社でも社内メールを使っておられると思いますが、社内でも同じフロアに居ながらメールを使ったり、同じ部署でメールを使うのをよく見かけます。メールは必ず伝わり、また文章を残したりするには大変便利ですが、大事なコミュニケーション、感情等に気を付けなければなりません。せめて「あいさつ」ぐらいはメールでなく、感情を込めて笑顔であいさつしてほしいと思います。

私は地元高岡市のスポーツ少年団のお世話をしています。どんなスポーツ競技でも、開会式や表彰式などでは、みんな大きく手を振り、行儀正しく揃って行進しています。大きな声で「あいさつ」するチームは必ず強く、チームの結束力もあります。強いチームだからそうなのか、みんな揃って大きな声であいさつするから強いのか私には分かりませんが、指導者の考え方が先輩から伝統を受け継がれて強くなると思います。

最初は、させられる「あいさつ」、「そうじ」であっても、その人、そのチームが身に付けてしまえば、その人、そのチームの「力」になると信じています。長い時間が掛かっても、強い「会社」にするために、強い「人」を育てるために、言い続けていきたいと思っています。

東京オリンピックでの日本選手団の礼儀正しさは素晴らしかったです。この日本は必ずコロナに勝てると思います。